

日本応用地質学会
岩盤分類再評価研究小委員会（第二期）

第7回議事録

平成20年12月26日

1. 日 時：平成19年12月17日(水)13:00～18:00

2. 場 所：応用地質学会事務局

3. 出席者：平野、伊東、遠藤、小島、都築、綿谷、江口（敬称略）
計7名

4. 資 料：

- ・議事次第
- ・資料7-1 委員名簿（11月5日修正版）
- ・資料7-2 第6回議事録（案）
- ・資料7-3-1 技術書執筆案（共通編）
- ・資料7-3-2 委員会審議内容
- ・資料7-4 各担当執筆原稿案および進捗状況
 - 資料7-4-1 進捗表（081216現在）
 - 資料7-4-2 1章 土木構造物と岩盤分類（骨子++）
 - 資料7-4-3 2.3 岩盤分類の体系、3.3 地形要因
 - 資料7-4-4 4章 岩盤と工学的性質（目次案）
 - 資料7-4-5 6.2 ダム
 - 資料7-4-6 6.7 掘削のり面
 - 資料7-4-7 第7章 7.1 概説 7.5 材料
 - 資料7-4-8 付録 海外における岩盤分類
 - 資料7-4-9 6.5 トンネル
- ・資料7-5 岩盤分類再評価研究小委員会（第二期）工程案

5. 議 事：

5-1 新期委員参加の確認

堀川氏の委員会参加について全会一致で承認した。

5-2 前回議事録の確認

内容については了承された。

5-3 技術書について

技術書の記載内容について、資料7-3-1に基づき議論を行った。議論の内容結果は以下の通り。

- ・統一した思想として、文章の根底に若手技術者に「岩盤分類を中心とした」土质地質学

の考え方を説明することで土木地質学とは何かを学び取ってもらうような書き方を目指し、丁寧かつ飛躍のない文章を心がける。ただし、土木の設計論や地質の詳細な知識、調査法等について、岩盤分類に関わるものについての記載は行うが、岩盤分類に関係のないものは書かない。

- ・統一した流れとして、第1章～第5章についてはどの工種にも共通する項目あるいは全工種俯瞰的な内容を書くようにし、第6章における各項目は第1章～第5章で書かれた内容、流れと矛盾しないよう書く。また、第7章は分類対象、分類の目的、分類の方法、分類対象に対する物性値の当てはめ方の流れで書いていく。

5-3 各担当執筆案について

12月14日に配布した原稿案、および当日各担当から配布された原稿案（資料 7-4-2～7-4-9）に基づき議論を行った。また、前回の委員会で審議できなかった第7章についての議論も行った。議論の内容結果は以下の通り。

- ① 1章 土木構造物と岩盤分類（説明は平野委員長）
 - ・「1.5.1 岩盤分類とは」では、地山分類に相当するものも記載する。
 - ・「1.5.3 土木の流れにおける岩盤分類の役割」では維持管理についても記載する。
- ② 4章 岩盤と工学的性質（説明は伊東委員）
 - ・水に対する性質として、単に吸水率と一軸圧縮強度を比較するのではなく、これらとスレーキング等の性質を比較し記載する。
 - ・軟岩と硬岩については別章立てで述べるものの、これらは一続きのものであるという考え方（ロックシリーズの考え方）を概説などに記載しておく。
- ③ 6.2 ダム（説明は綿谷委員、江口）
 - ・「6.2.1(3) 顕著な事故・トラブル例からみた地質調査と的確な評価の重要性」における Malpasset と Teton の写真や図面等について、引用許諾の手続きが難しそうなものについては省略する。
 - ・「6.2.3(2) 岩盤試験と岩盤分類の考え方」における透水性の記載は、一般的なものにとどめ、個別事例は第7章で記載する。
 - ・「6.2.3(3) 岩盤試験の設計への適用」では、以下を追加する。a. 岩級とせん断強度の対応 b. 岩級分布比率から平均せん断強度を求め設計へ適用 c. 掘削法と積算への適用
 - ・「6.2.4 ダムの岩盤分類の相互比較」は、内容がダムの岩盤分類だけでなく JGS 分類も含めたものとなっていることから、2.3 章内、コラム、付録のいずれかに記載するものとする。
 - ・「6.2.5(1) ダム基礎岩盤の岩盤分類、岩盤評価における現状と今後の課題」において、国交省系のダムではサイト毎で CH、CM、CL の岩盤強度は異なっているので、この現状について記載すべきである。
- ④ 6.7 斜面（説明は江口）
 - ・6.7.3 におけるトップリングやブロック崩壊の概念については正確な記述を行う。また併せてスラヴィングについても記載する。
- ⑤ 7.5.1 ダム基礎掘削岩の高品質骨材の流用を目的とした岩盤分類
 - ・ダムサイトの図面類の掲載については許可が得られそうか再度確認する。
 - ・材料のための分類の一般論を最小に記載する。

- ・色による分類を行ったことが強調される文章構成とする。
- ⑥ 7.2.1 地すべり土塊の透水性について
 - ・調査の概念、土塊の透水性区分の概念図を作成する。
- ⑦ 付録 海外の岩盤分類
 - ・テルツァーギの分類、RMR、Qシステムについて記載することとする。

5-4 分担等について

技術書執筆における分担について以下の議論を行った。

- ・技術書執筆における各章のリーダーの役割を明確化するため、全体のメー切前に各章におけるリーダーへの提出メー切を設定する。
- ・第7章のリーダーは江口とする。
- ・堀川委員の作業分担については、幹事が案を作成する。

5-5 次回の開催および原稿案の提出について

次回の開催は、年度末に設定した場合、参加者の調整が難しくなることが想定されることから、平成21年4月中旬頃とし、次回の委員会までにBランク相当の原稿案を提出するものとした。

しかし、現状ではBランク相当の原稿が提出されている章が少なく、現在の原稿案で詳細な各章での重複や抜け、表現統一の確認が難しいことから、2月中旬までにBランクの一次案原稿を提出し、これを各委員に配布して、原稿に対する意見をメールで幹事に提出することとする。また、意見の状況によって必要に応じ臨時の委員会の開催（この場合3月上旬頃）も検討する。

工程案および目次案の修正（現在の目次案、進捗状況、分担表に骨子、ページ数案を記載したもの）を幹事が作成する。

場所は日本応用地質学会事務局とする。

以 上